

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第4期第6回相模原市緑区区民会議				
事務局 (担当課)		緑区役所区政策課 電話042-775-8802(直通)				
開催日時		平成30年5月28日(月) 13時30分~15時00分				
開催場所		緑区合同庁舎 集団指導室				
出席者	委員	17人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	11人(緑区長、緑区副区長、緑区役所区政策課長、他8人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 地域活動の情報発信について (2) 第4期緑区区民会議報告書の構成について (3) 区の課題解決に向けた取り組みについて 3 その他 4 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

松井会長の司会進行により議事が進められた。

会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議の公開、配布資料の確認を行った。また、傍聴希望者の報告を行い、傍聴を許可した。

併せて今回から委嘱した委員の紹介を行った。

2 議題

(1) 地域活動の情報発信について

前回の区民会議で議論された地域活動の情報発信に関していただいた意見を基に、区民、行政、協働において取り組むべきことを整理し、意見について、第4期緑区区民会議報告書へ記載するとの説明を事務局から行った。

情報発信について、一方通行にならないようにすることが大切である。全ての人が情報の発信者であり、受け手であることを認識した上で、受け取った情報をどうしていくべきか考えていく必要がある。また、知見の共有についても大切であるので、行っていくべきである。

人材バンクの整備について、緑区や市では取り組んでいるのか。

人材バンクとしての取組みはないが、市では観光マイスター制度がある。

人材バンクにも地域性があると思われる。城山では、法政・家政学院などの大学との連携や、館団地、寺田団地との地域間交流を推進している。若い人との交流は地域の活性化につながると思う。社会福祉協議会や自治会も人材バンクではないかと思う。

(2) 第4期緑区区民会議報告書の構成について

第4期緑区区民会議の今までの取り組みや今後の区民会議として報告書を提出することについて、事務局から説明を行った。

更に具体的に書いたほうがよい。

商工業関係の名称を入れたほうがよい。

観光は前回の第3期でも検討がされているので、できなかったものを次期に送ることは止めたほうがよいと考える。記載するものについて、考えて精査したほうが良い。

観光の案件は、短期、中期、長期があるので、何度取り上げても構わないので

はないか。

(3) 区の課題解決に向けた取り組みについて

第4期第2回区民会議で議論された緑区区ビジョンの評価について、評価結果を踏まえ今後の具体的な取り組み内容について、3班に分かれて議論が行われた。

資料に記載されている短期、長期の時間軸を説明していただきたい。

基本計画に合わせて実施計画を定めている。目安として、実施計画が3年間で、リニアに合わせてインフラ整備も合わせている。2020～2027年が基本計画期間となる。

地域住民が考え、お金がなくてもできることは短期、時間やお金、ノウハウを考えるのが中期、行政と住民が関わりながら作り上げるのが長期という考えはできないだろうか。

各班で出た意見 (概要)

(1班) 「区内の活性化・観光振興に関する取り組み」

県がオリンピックの事前キャンプに向け、相模湖を整備するので、外の人に目を向けてもらう方策としては、大会を開催するなどがある。

緑区は自然が豊かで、お米作り体験などの体験型農業もあり、年々参加者も増加傾向であるため、自然資源を活用したほうがよいと考える。

ボートについても、体験型イベントとしてPRことができるのではないかと思われる。

事業を単発で終わらせず、長期的に考える必要がある。

ボートは、昨年度、相模湖で足こぎボートの選手権大会を行い、TVKにとりあげられた。

イベントについては、長続きさせ、地元と融合していくべきである。

地域に定着できる、皆が楽しめるものがよい。

今後、外国人が情報を得たり、体験するには、どうすればよいか。

酒蔵は体験できるのか。(久保田酒造・清水酒造)

統一したサイトが必要ではないか。「すもうよ緑区」内の情報の強化を行ったほうがよいのではないかと考える必要がある。

長期においては、リニアの体験型観光も考えることができるのではないかと考える。

地元の住民がガイドを行うガイドツアーの実施をしている所もある。

ものづくりでは、地域にはそば作りや大豆からのみそ作りがある。こういったことを知らない人にも伝えていったほうがよい。

緑区のサイト「すもうよ緑区」に情報を掲載してもらうことで、対象を広範

圏に周知できるのではないか。

(2 班) 「安全・安心・環境、地域コミュニティに関する取り組み」

8月から、市の土木事務所で、津久井、相模湖、藤野の住宅地図を使用しハザードマップを作るとのことだが、それに対応した避難計画等を行政が作るべきである。

土砂災害警戒区域の指定などにより、家の建替えが難しくなったという問題が生じている。

自治会が衰退しており各单位自治会単独では事業実施が難しくなっている。複数の自治会で協力して事業を行う、または、自治会の合併を検討する必要がある。

地域の安全・安心について、防犯カメラの設置は費用の問題があり限定される。防犯メジャーや、見守り活動等の地道な活動を続けるしかないのではないか。

地域の安全・安心という観点で、津久井地域では鳥獣被害が加わってくる。クマ等の被害は死活問題である。

安全上、致し方ないが、クマ等の防災メールやひばり放送が流れると、地域を訪れる人の足が遠のくという問題もある。

地域のお祭りや活性化について、人材バンクの活用はよいと考える。お祭りの際に、手品など出し物ができる人を登録しておけば活用ができる。今は、行政や地域、公民館といった、それぞれの団体が人材の情報を持っているが、行政なりで情報を集約し活用できるようにすればよいと考える。

(3 班) 「担い手づくりに関する取り組み」

自治会の中には、会費のみ徴収して何もしていない自治会もある。

一方で、PTAの登下校の見守りも保護者は仕事に行っていてできないという人も増えている。つまり、若者は若者世代で活動し、高齢者世代は高齢者世代で活動している。

お互いに、担い手がないということもある。世代間が交流できるようなイベントを開催して知り合いになって、その結果連携してお互いを補えるようにできたらと思うので、まずは、世代間交流イベントを開催する必要がある。

近隣の大学生、高校生、中学生、小学生等を地域の行事に巻き込んで小さいうちから地域活動に参加させ地域の愛着心を育てる必要がある。

地域の高齢者も若い大学生が地域へ入って活動すると、高齢者もやる気になって活動意欲が湧いてくる。大学生、高校生を地域活動に取り組むため、若者世代が活動できる場の提供をする必要がある。そこから、また他のものへつな

がっていく。

中小企業では、若者の企画を頭から抑える傾向にある。若者の意欲、企画力を育てていないような傾向にある。若者に企画させ、実行させる仕組みづくりが必要である。その成功体験が、新たな意欲となって次につながると思う。

担い手不足と言うが、何の担い手が不足しているのか分からない。地域活動で言えば、自治会活動も確かに加入率は低下しているが、昔と変わらずお祭りをしたり、地域清掃をしている。地域住民が必要だと思うことは、それぞれ親が子へしっかりと伝承していると思う。自分達に置き換えてみると、40代の頃は地域活動へ参加は、子育てと仕事で手一杯で、している暇がなかった。しかし、年齢を重ね、子どもも育ち終わると余裕が出てきて、地域にも目が向くようになるというのが現状ではないかと思う。したがって、地域活動の先輩たちがしっかりと、地域を見ながら伝承できる人を見つけ、活動に巻き込んでいけばいいのではないかと思う。

東京オリンピックでは、自転車競技で緑区を通るという噂もあるので、このオリンピックを契機として、自転車をツールとした、世代間交流イベントを実施したら良いのではないかと思う。自転車は緑区内の高校等の生徒も多く利用しているので、自転車の乗り方マナーの啓発等にもつなげていけるのではないかと思う。

若いお母さん方が多いと感じており、子育て環境の整備が必要である。

町田、津久井、橋本との地域間交流をサポートしてくれる人材を募っている。大学からは、声をかけてくれればいつでも参加させるとの快諾をもらっている。最終的には土地の人との結婚につながればと思っている。

館、寺田団地との方との良好な関係も持ちたいと思っている。

大学生は4年で卒業してしまうので、担い手の確保が必要である。

3年位前から乗馬クラブへのサポートを行っており、担い手につながれば最高である。子育てサロンもあちこちにできていることや、大学の馬の糞を地域では肥料として使っている。地域間・世代間交流を大事にしていきたい。空家も多くなっていることから、その対策も必要である。

津久井では金原のまちづくりが進んでいる。しかしながら、地域住民との連携ができていない。また、交流の場として、カヌー大会が道志川で行われた。担い手づくりや団体間の協力などは津久井地区ではできていると思う。青根では、地域活性化事業交付金を活用して麻布大学との連携を図っており、子どもたちを集めて田植えなどを行っている。昨年は大学内の博物館で展示会が行われ、大変感謝している。青根小学校の統廃合も予定されており、ますます地域が衰退してしまう懸念がある。高齢化も進んでいるが、そのような方は大事な人材であり、周りが言うほど、限界集落ではないと考えている。

商工業の立場から見ると後継者がいないことが問題である。本日の会議に、仕事を置いてでもこのような会議に出てくれる若者が欲しい。それは、若い人の意見を年配の方が押さえつけていることにも原因があると思う。若い人が自由にできる雰囲気づくりが必要と感じている。

担い手づくりは、作ろうと思ってもできないと思う。皆が若い頃はどうか。仕事第一主義ではなかったのか。担い手は心配しなくても、先輩が引退すれば、おのずとできると思っている。元気になるためには、地主、権力者、長男が頑張らないといけない。もっと、親が手放さないと子どもは育っていかない。もっと子どもを信用したほうがよい。また、もっと若い世代の団体を区民会議に入れるべきである。

自転車で活性化ができないかと考えている。戦略プランも考えているが、今日はお見せできない。また、子ども会がなくなる時代であるので、その点についても考えていく必要がある。

オリンピックが来るので、タイムリーな取組ではないか。自転車の乗車マナーも大事だが、オリンピックに便乗することにも意義があると思うので、応援したい。

最後に、各班を代表して発表が行われた。

(1 班)

地元住民と融合できる取り組みを行うべきである。

ボートなど皆で楽しめる事業を長続きさせ、定着させることが必要である。

地域住民を一体化する取組が必要ではないか。

地元住民のガイドを育成することでより地域へ愛着と理解が深まるのではないか。

(2 班)

防災ハザードマップに対応した避難計画を行政も含めて作るべき。

複数の自治会で協力して事業を行ったり、自治会を合併することも検討していくべきではないか。

不審者情報など、情報を提供して地域の見守りを増やしていくべきである。

(3 班)

地域にある高校などの学校と地域交流を促進すべきである。

地域に若い人はいないが、地域の高齢者は元気な人が多く、地域で頑張っている人もいる。

新しい意見を持っている人に対して、頭を抑えてしまいがちであるが、失敗してもいいので挑戦できる後押しができる体制づくりが必要ではないか。
こういった場に青年部や青年会などもっと若い人が参加できるといいと思う。
自転車を手段として使用して、地域発展を行っていったほうがよい。

3 その他

次回会議は、平成30年7月頃の開催を予定。詳細は事務局でスケジュール調整した後に通知することとなった。

4 閉会

相模原市緑区区民会議委員出欠席名簿

（順不同・敬称略）

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
まちづくり会議	柳 信幸	橋本地区まちづくり会議	出席
	田野倉 義信	橋本地区まちづくり会議	欠席
	中山 光明	大沢地区まちづくり会議	出席
	吉村 幸弘	大沢地区まちづくり会議	出席
	山下 利麿	城山地区まちづくり会議	出席
	曾根 哲男	城山地区まちづくり会議	出席
	落合 勝司	津久井地区まちづくり会議	出席
	関戸 佐助	津久井地区まちづくり会議	出席
	森久保 眞二	相模湖地区まちづくり会議	出席
	長谷川 兌	相模湖地区まちづくり会議	欠席
	森川 哲郎	藤野地区まちづくり会議	欠席
	小山 秀文	藤野地区まちづくり会議	出席
関係団体	草野 寛	相模原市自治会連合会	欠席
	今井 俊昭	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会	欠席
	岡崎 敏	相模原市立小中学校PTA連絡協議会	欠席
	上原 泰久	相模原商工会議所	出席
	小川 喜平	津久井地域商工会連絡協議会	出席
	永井 宏一	一般社団法人 相模原市観光協会	欠席
	本田 泰章	公益社団法人 津久井青年会議所	出席
学識経験者	松井 望	首都大学東京	出席
区民	栗島 建治	公募委員	出席
	白阪 洋一	公募委員	出席
	松崎 博子	公募委員	出席
民間事業者	山本 篤史	株式会社KADOKAWA	出席

は会長、 は副会長